

高齢者施設への巡回接種に参加しました！

金沢市内の高齢者施設へコロナワクチン予防接種の巡回接種に参加しました。
ケアハウス朱鷺の苑かがやきへ訪問した際、利用者様が作られた可愛いお雛様が出迎えてくれました。
巡回接種の緊張感の中でホッとする瞬間でした。素敵なおもてなしをありがとうございました。



医療法人明仁会

かないわ病院

〒920-0351

石川県金沢市普正寺町 9-6

電話 076-267-0601(代)

FAX 076-267-0962



かないわ病院 基本理念

- ① 患者様の権利・人権を尊重します。
- ② 適切な医療と正確な情報を提供します。
- ③ 社会復帰と地域支援を目指します。

かないわ病院 基本方針

- ・私達は、個人の尊厳を厳守し十分な説明と同意に基づく医療を提供します。
- ・私達は、患者様の主体性・個別性を重視し最小限の制限と開放に努めます。
- ・私達は、自己啓発に努めるとともに全職員相互の力を発揮できるように努めます。

かないわ病院公式 SNS

Facebook



Instagram



当院では、新型コロナウイルス対策に伴い、入院患者さんの面会制限をいたしております。入院患者さん、ご家族の皆さんには多大なご迷惑をおかけしますが、感染防止強化のため、当面の間、**面会を予約制**とさせていただきます。面会の予約につきましては、各病棟スタッフまでお訪ね下さい。

なお、差し入れ・洗濯・他科受診等でご来院の場合は、受付までお申し出下さい。

答え：当院における新型コロナウイルス陽性者発生日と収束日

こんにちは！

かないわ病院です

2022年3月発行 第20号～クラスター発生から早期収束まで～

この度は、かないわ病院で発生しました新型コロナウイルス感染症院内感染につきまして、患者様やご家族様ならびに多くの皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしたことを、心よりお詫び申し上げます。また、陽性者の治療にご協力いただいた関係行政機関の皆様、当院への励ましのお言葉やご支援を賜りました皆様には、心より御礼申し上げます。

この特別号では、今回の新型コロナウイルス感染症院内感染についてのご報告申し上げます。

「今、何ができるか？何をすべきか？何からすべきか？」～クラスター発生から早期収束まで～

常勤顧問・コロナ対策本部統括マネージャー 金谷法忍先生

精神科病院、高齢者療養施設での感染症対策には限界、脆弱性はあることは歪めない。まずスタッフの持ち込みによる感染ルートを遮断することが重要と考え、これまで徹底的にスタッフの指導、教育に努め、感染対策を行ってきた。COVID-19 感染の県内1名が初めて報告されて2年経過するが、幸い院内患者発生なく不安と向き合いながら何とかこれまで対応してきた。

2022年2月2日、遂に当院でも患者1名の新型コロナウイルス院内感染が判明し、数日でクラスターとなった。戸惑いと、危機感がよぎったが、当院として今、何ができるかを考え、1例目発生直後、当日に迅速かつ可能な限りの行動に移した。緊急にグループホームを臨時コロナ療養隔離施設(写真1)に転用、即日入所させた。以後、病院独自のトリアージを作り、早期の診断、全例中和抗体(ゼビュティ)を早期に投与し、一般病棟で隔離治療を行い、ソート、看護勤務体制、濃厚接触者のPCR検査、全病棟体温検査を4検とし疑い患者の早期発見に努めるなど、職員一丸となって取り組んだ。クラスター発生後5名の患者、2名の職員、累計7名に留まり、2月9日以後感染者なく、2月22日収束にこぎつけることができた。

今回の結果は職員の一体感、逐次情報の共有、意識改革を進めたことが大きな要因であったが、行政の指導・協力も大きいと考えた。今、クラスター発生から早期に収束して思うことは、**かないわ病院にとってコロナは多くのことを変え、多くのことを教え、多くのことを学ばせた**と思っている。なかでも職員全体の不安、ざわつきから徐々に意識改革されたことである。これまでコロナに対し正しく怖れることが重要と内容が十分理解されないまま言葉だけが独り歩きしていたが、具体的に少し理解できるようになったと思われる。すなわち、オミクロン株の強烈な感染拡大が未だ止まらないコロナ禍においては院内感染より市中感染が主体で、とくに家庭



写真1 臨時コロナ療養施設

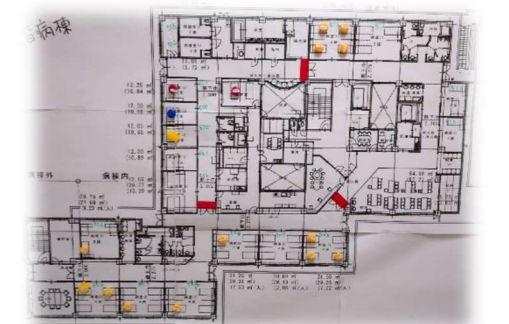


写真2 病院独自のトリアージ

内感染の予防には限界があるが、手指消毒、マスク装着を適切に行い、感染対策を徹底すればワクチン、治療薬が可能となった現在、コロナは決して怖くないことを学ばせてもらった。まだまだ新型コロナ感染症の第6波も高止まり状態で、世界的にもコロナ感染症の収束にはまだ時間がかかると思われるが、更なる感染対策に徹底し、患者、職員の安全を守るように職員一丸となって引き続きコロナと向き合っていきたい。

最後に、県、市の行政の支援事業として全職員対象とした高齢者療養施設従事者の頻回の集中的 PCR 検査を行わせていただいたが、クラスター発生の予防、収束さらには安心な職員の医療従事（安全パスポート）に対しての今回の支援事業の役割は極めて大きいと考え、改めて関係各位に深く感謝したい。

*なお、今回、当院のクラスター収束の感染対策の内容は、日本精神科病協会石川県支部の青木先生の依頼で2月24日に日本精神科病協会石川県支部臨時の講演会として Web 開催され（写真3）、小生と看護部長の坂田が発表する機会をいただいた。予想以上の反響で近隣の精神病院を含め高齢者療養施設従事者に少しでも役立つよう、講演会の内容につき Web 配信、DVD の配布も行った。

写真4：集合写真「2022.02.02. - 2022.02.22.」は何の数字？ 正解は本ページ最後に



写真3 日本精神科病協会石川県支部 Web 講演会



写真4 集合写真

医療・福祉関係事業者の皆様へ

日本精神科病協会石川県支部主催の臨時講演会 DVD のご希望がありましたら地域連携室までご連絡ください。

職員の体験談～家庭内感染について～

新型コロナ感染者急増の原因の一つとなっているのが「家庭内感染」です。今回は、家庭内で新型コロナウイルスに感染した職員の体験談を報告します。

今回、家庭内感染を経験して、これまでの経緯や感想を報告します。

まずは、第2子が喉の痛みを訴え、受診した病院先で感染していることが判明しました。次に第1子、その後夫と私が続けて感染しました。リレーのように、あっという間に家族全員が感染したことが印象的でした。私自身は3回目ワクチン接種を終えていましたが、悪寒、熱、咳の症状があるなか、小さい子どもの看病もしていました。

子どもから私に感染し、また私から子どもへ感染をして“家庭内感染∞（無限）ループ”になるので・・・と不安でした。子どもの感染から私の自宅療養終了日まで計15日間を自宅で過ごし、長くも感じましたが、しっかり自宅療養し後遺症なく職場復帰をすることができて良かったです。

急な長期の休みとなり、所属先や同僚にはご迷惑をおかけしましたが、復帰を温かく迎えてくれて本当に良かったです。ありがとうございました。

新型コロナウイルス対応ナースより～私たちは“コロナース”です！



この度コロナウイルス感染症のクラスター発生に伴い、皆様にご心配とご迷惑をおかけしました事を心より深くお詫び申し上げます。コロナウイルスによる日常生活が始まり様々な変化に戸惑いながらも2年が経ちました。かないわ病院でも院内発生時を想定し準備をすすめ感染対策に取り組んでおりました。

2月2日、院内にて発生して以降、全職員一丸となってウイルスと闘い早期収束に至りました。感染拡大への不安の中、私たち看護部はこれまでの準備を活かし、感染者の早期回復と患者様、ご家族様からの気遣いの言葉にとても励まされ一人一人が役割を果たすことができました。

今回クラスターを経験し多くの事を学ばせて頂き、これからも私たちの果たす役割に皆で取り組んでいきたいと思えます。

看護部長 坂田めぐみ

当初は、恐怖や不安など考える余地もなく迅速で的確な指示に対応することに精一杯でした。精神科病院での感染制御の特殊性や、未知な業務で十分な感染対策が取れないことに頭を抱えることもあり、心が折れそうになりました。そんな時、先生方をはじめ看護部長、各病棟看護師長、他部署の職員、病棟職員達のサポートや応援、協力を得て乗り越える事が出来ました。

精神科での感染対策は、「やり続ける事が大事であり、正しく恐れ、そして…信じて不安と戦う。」

コロナをアスペクト（受け入れる）して、今後も感染対策を継続して行きたいと思えます。

4 階病棟看護師長 安達 陽子

コロナウイルスに感染された患者さんを看護することとなり、感染症患者さんの治療に携わるということは、自身が感染し、感染の媒介者になるかもしれない不安や怖さがありました。

自身が正しい感染対策が出来ているのか、感染を拡大させるのではないかと不安がありました。しかし、先生方、看護部長、病棟師長、多くの病院職員の働きかけによって、スムーズに医療に従事できるよう体制が整えられ、新たな環境での感染対策が細かくマニュアル化されていたことから、安心して業務することが出来ました。

最後にコロナースとして業務させていただいたことで、感染に対する意識が高まりました。こまめな手洗い・消毒・ガウンテクニックを正しく実施することで、感染拡大を止め、感染予防が出来るのだと改めて学ぶことが出来ました。コロナは早く収束して欲しいですが、コロナが発生した際はまたコロナースとして業務したいと思えます。

4 階病棟副看護師長 秋田瞳